
向日葵 あなたを見つめる

鈴代 明

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

向日葵 あなたを見つめる

【Nコード】

N9856H

【作者名】

鈴代 明

【あらすじ】

暑い日差しが照りつける眩しい光が包み込むみんなに平等なあなたを私はただ見つめるだけ…少しでもあなたに近付くために私はできるだけ背伸びしてただいつまでもあなたを見つめてる―「おーい そっち行ったぞ」「任せろ！」窓から聞こえる男子の声黒板を叩く音も彼らの声に掻き消されてしまう輪の中心にいる彼は一際太陽の光を浴びていた窓から見下ろしたその姿しか知らない…月曜日のこの時間の彼しか…知らない

暑い日差しが照りつける

眩しい光が包み込む

みんなに平等なあなたを私はただ見つめるだけ…

少しでもあなたに近付くために私はできるだけ背伸びして
ただいつまでもあなたを見つめてる―

「おーいそっち行っただぞ」「任せろ！」

窓から聞こえる男子の声

黒板を叩く音も彼らの声に掻き消されてしまう
輪の中心にいる彼は一際太陽の光を浴びていた
窓から見下ろしたその姿しか知らない…

月曜日のこの時間の彼しか…知らない

同じラインの体操服…分かるのはそれだけ

―キーンコーンカーンコーン

チャイムの音がタイムオーバー―

少しでも長く彼の姿が残るように見えなくなるまで目で追った
友達と笑いあう顔が心に焼きつく

見えなくなる寸前…少しだけ目が合った

彼の瞳を見たのは初めてで…鼓動が早く鳴り打った―
彼のことを思った…ずっとずっと

何度目かのチャイム

「ほら見て。里田くんがいる！」

バタバタと窓際に走ってきた女の子たちにより現実に戻された

「里田く〜ん！」

男子であろうその里田くんって人はこちらに手を振っていた

「あ…」

彼だった

里田…はじめて知ったその名前が一瞬で愛しくなる

気付かれないようにそつと窓から見下ろした
体操服姿以外の彼を見つめていると

視線がよほど熱かったのか…

ふいに彼は上を見上げた

目を逸らす前に彼は上に向かって手を振った

いつのまにいなくなったのか周りに女子の姿はない

視線を彼に戻すと綺麗な笑顔でこちらに手を振っている

キョロキョロと目を泳がせる私を彼は指差した

頬がだんだん赤くなつていくのが分かる

ふと彼の名を呼ぶ声がある

彼は右手を開いて私に向けニツコリ笑うと男子の元へ走っていった

モノクロのボールが彼の足元に吸い寄せられる

蹴り返されたボールは大きく弧を描く

まるで何一つ障害がないかのように

ボールはまっすぐゴールに吸い込まれた

男子の歓声に笑いを浮かべ彼…里田くんは汗を拭う

「すごい…」ぼーっと魅入っていた私の目に彼の姿が映った

里田くんは二本指をかがげて笑っていた

「!!」その眩しい笑顔につられて笑うと彼の動きが止まった

(…?) 里田くんは手をゆっくり下ろすとどこかに走っていった

まった

(…私何かしたのかな)

不安が少しずつ広がってゆく

——ガラッ

遠くで聞こえた扉の音に気付いたのは手を掴まれた後だった

隣で息を切らす人…

顔をあげたその人は…

「里田…くん」

火照った顔のその人は私の好きな人

目の前にいるいつもより大きな彼に心臓が早まる

「……あのさ・・・」

瞳で伝わる相手への想い

—あなたをみつめる—

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9856h/>

向日葵 あなたを見つめる

2010年11月10日10時36分発行